



PISA

IN FOCUS

22

education policy education policy education policy education policy education policy education policy education policy

移民の生徒は、不利な条件の学校でどのような成績を収めているのだろうか？

- 移民の生徒が学校で良い成績を収めるには、同時にいくつもの障壁を乗り越えなければならないことが多い。
- ほとんどのOECD加盟国で、移民の生徒の成績が他の生徒と比べて良くないことは、学校で社会的に不利な条件にあることと強い関係があり、それは母親の教育水準が低い生徒の割合として反映されている。
- ある学校に移民の生徒、または授業で使用する言語を家庭では話さない生徒が集中していることは、成績が良くないこととそれほど強い関係はない。

移民の生徒を学校システム、そして社会へ統合するために選択される政策と実践は、大きな反応と激しい論争を引き起こす。授業で使用する言語を家庭で話さない移民の生徒が集中することは、こうした生徒とその同級生たちの成績に影響するのだろうか？移民の生徒とそうでない生徒との間の成績における違いは、生徒の通う学校が持つ社会経済的な違いとどのように関連しているのか？

移民の生徒は学習上、いくつもの課題に直面する

不利な条件と移民の地位は密接に結びついている。ほとんどの移民はより良い経済的見通しを求めて故国を離れる。移民が受入国に到着すると、他の移民たちがいるコミュニティに住み着くことが多く、そこでは文化や言語、そして社会経済的地位をも共有している。移民は低賃金の仕事に雇われることが多く、借り入れの機会も限られているため、住宅の選択肢もたいてい少ない。移民の子どもたちは同じ学校へ通うこととなり、こうした学校では多くの場合、移民の生徒の割合が高い。結果として、移民の生徒は各学校に均等に分散してはいない。むしろ、特定の学校に集中する傾向がある。ほとんどの場合、こうした学校では移民の割合が相対的に高く、一般に他の学校よりも社会経済的に恵まれていない。その結果、移民の生徒が学校で良い成績を収めるには、同時にいくつもの障壁を乗り越えなければならない。すなわち、言語の壁、自分の移民としての地位、恵まれない家庭、そして、学校で良い成績を収めるために、同級生の多くがこうした同じ障害を克服するためにもがいているという事実である。

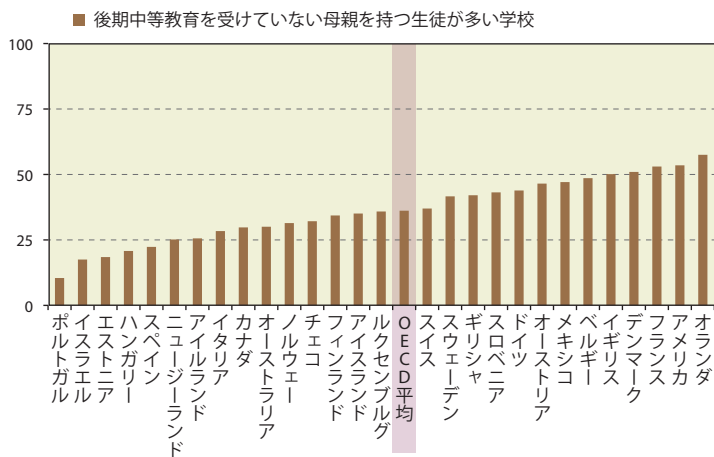
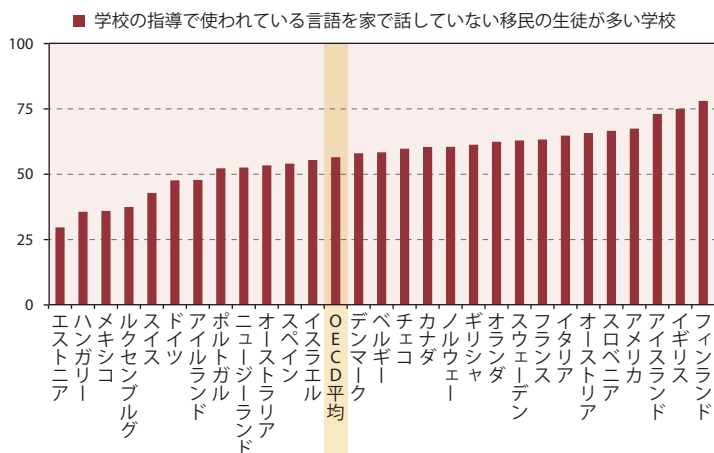
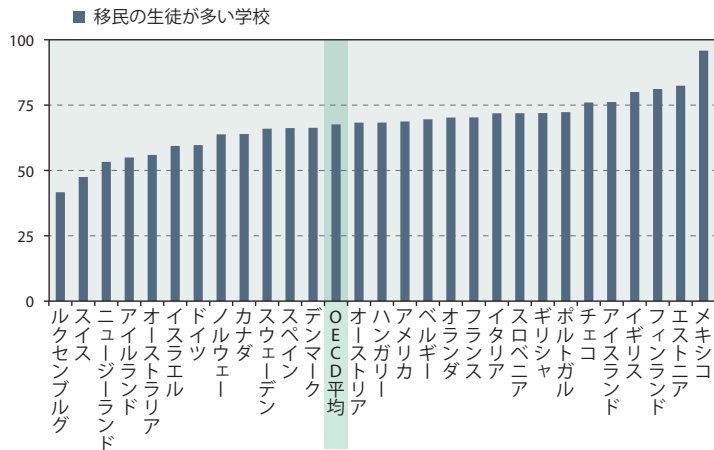


PISA

IN FOCUS

移民の生徒が直面する複合的な問題の解明

以下の割合が高い方から4分の1の学校における
全生徒に対する移民の生徒の割合

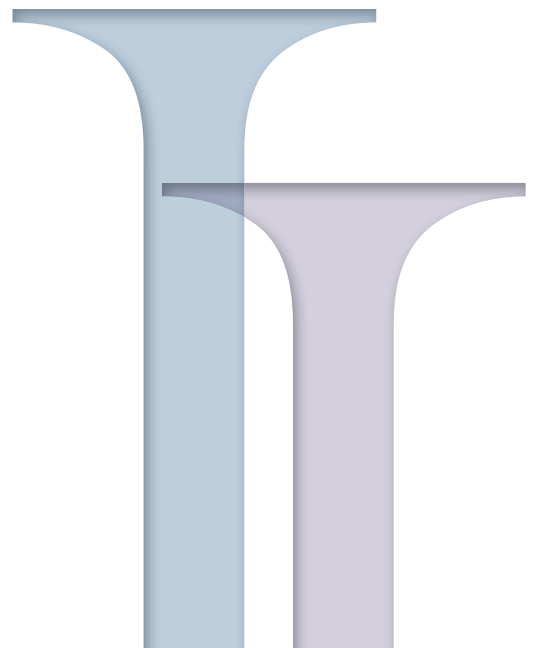


注: 国は、各割合の低い順に左から並べている。
出典: OECD (2012), *Untapped Skills: Realising the Potential of Immigrant Students*,
Figure 5.8 and Table 5.4.

移民としての地位、言語スキル、社会経済的背景の間の関係を解明するのは簡単なことではない。しかしながら、PISA調査のデータから、こうした三つの要素が相互にどのように関係し、生徒の学校での成績とどのように関係しているのかを示すことができる。

…その一つは通う学校の特性に
関係する。

PISA2009年調査のデータから、3種類の学校に的を絞り、分析を行った。移民の生徒が最も集中している学校、学校の授業で使用する言語と異なる言語を家庭で話す移民の生徒が最も集中している学校、そして母親の教育水準が低い生徒が最も集中している学校である。母親の教育水準が低い、すなわち、母親が後期中等教育を受けていないことは、特に移民に関係する社会経済的に不利な条件を測る尺度となる。



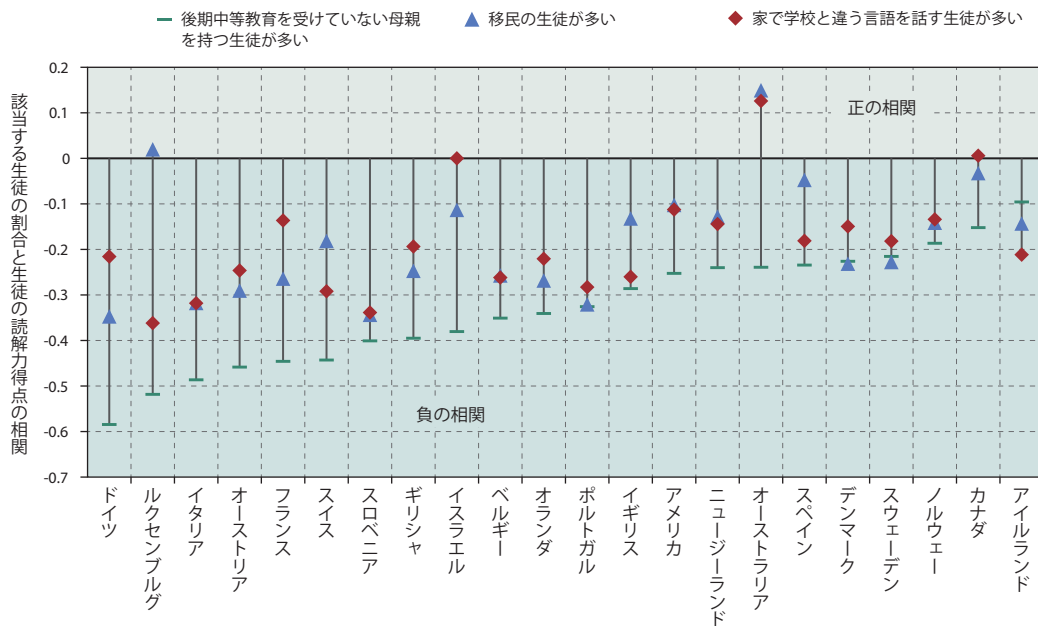


移民の生徒がどのような学校に入っているかは、国によって著しく異なる。例えば、ニュージーランドでは、移民の生徒の割合が高い学校に通っているのは移民の生徒の50%で、OECD平均の68%を下回る。さらに、社会経済的に恵まれない学校に移民の生徒が集中する割合も、ニュージーランドでは比較的低く、母親の教育水準が低い生徒が集中する学校に通う移民の生徒はわずか4人に1人で、これと比べてOECD平均は36%である。ドイツでは、学校に移民の生徒が集中する割合は中くらいで、OECD平均程度である一方、社会経済的に恵まれない学校に移民の生徒が集中する割合はOECD平均よりも高い。イギリスでは、学校に移民の生徒が集中する割合は、最も恵

まれない学校に移民の生徒が集中する割合と関係している。

このような観点から生徒の成績を分析すると、特に移民の生徒の間で成績が振るわないことは、母親の教育水準が低い生徒が学校に占める割合と強く関係している。この調査結果は、移民の生徒が同じ様な社会経済的に不利な条件に直面した生徒が通う学校に集中している場合、移民の生徒、それどころかすべての生徒が、学校で良い成績を収めるための大きな壁に直面していることを示している。

移民の生徒における
学校での不利な状況の集中と読解力得点との関係



注: 国は、生徒の得点と各学校での後期中等教育を受けていない母親を持つ生徒の割合との相関係数が小さい順に、左から並べている。
出典: OECD (2012), *Untapped Skills: Realising the Potential of Immigrant Students*, Figure 5.9 and Table 5.6.



PISA

IN FOCUS

対照的に、成績不振と非常に強く関係するのは、移民の生徒の割合でも、異なる言語を話す生徒の割合でもないことを、この結果は示唆している。言い換えれば、様々な国の出身者である生徒や、複数の言語を話す生徒と同じ学校に通うことは、母親の教育水準が低い生徒の割合で判断されるような、恵まれない生徒が集中する学校に通うことほどには、学習の妨げになっていない。それどころか、移民の生徒の割合が高く、成績優秀な学校もたくさんある。多くの場合、その優秀な成績は、異質な生徒を受け入れ、それを最大限活用することを意図した特定の国・地域の教育政策の結果なのである。

カナダのアルバータ州では、まさにこの種の特性が多くの学校に当てはまる。例えば、教育水準の高い個人を対象とした移民政策によって、学校の成績水準が上げられる例もある。その他、特定の成績優秀な私立学校が特に外国から生徒を選抜し、国際的に認められたカリキュラムを提供する例も存在する。

結論：生徒の成績は、必ずしも学校または学級における移民の集中によって妨げられるものではない。だが、社会経済的に不利な条件が学校に集中することは、生徒の成績不振と強く関係する。従って、個々の学校に不利な条件が集中しないようにすることは、移民の生徒を学校に、そして最終的には社会に統合することを助ける、適切な第一歩となる。

本稿に関するお問い合わせ先

担当: Pablo Zoido (Pablo.Zoido@oecd.org)

出典: [OECD \(2012\), *Untapped Skills: Realising the Potential of Immigrant Students*, OECD Publishing, and the full set of related tables.](#)

参考サイト:

www.pisa.oecd.org

www.oecd.org/pisa/infocus

次回テーマ:

「生徒は、後期中等教育学校卒業後の進路をどのように考えているのだろうか？」

本稿の翻訳は、日本のPISAナショナルセンターが担当しました。